

●東京都町村議会議員講演会（東京都） 奥山 幸子
令和7年5月7日 15時00分～17時00分

目的：議員の研修

演題「議員と住民の距離を縮めよう」～なり手不足から主権者教育まで～

講師 拓殖大学政経学部 河村和徳教授

成果

まず、提示されたのが“地方議員に関する誤解”でした。

- 1 地方議員の定数を減らすべきという政治学者がいる
- 2 地方議員の数を減らすと行政改革に大きく貢献する
- 3 地方議員の議員報酬は多すぎる
- 4 地方議員には年金がある
- 5 地方議員は職業である

河村氏は、それぞれの課題について、現状と見解を述べて、誤解を解く方法を述べたが、概して一般的な見解にとどまっているように思えた。

- 1 本来議員は住民の代表であり、力をもつ特定の政党や団体が数の力で代表を送り込むことには賛同できない。多様性を確保するため定数は減らすべきではないと思う。河村氏の見解は理解できる。
- 2 議員数を減らすことで、どんな改革ができるのか。報酬を減らせるから行政改革になるという考え方は、本来の議員の存在意義と関係ないので、改革とはつながらないと考える。
- 3 議員の報酬は多すぎるとは思わないが、少なすぎるとも考えていない。ただ、御蔵島や青ヶ島で議員報酬を上げたと聞いているが、それまでが低すぎたため、正当な報酬額になったと考えるべきだ。八丈町の場合も上げる時期になっていると思う。
- 4 議員年金は今ないが、あると思っている住民はかなりいる。こうした誤解を解くには、住民との直接の交流が必要となる。
- 5 議員は職業ではない。

講師があげている、住民との距離を縮め、主権者教育という課題については、議員と住民との直接対話を実現することが最も有効な解決方法だと思う。講師の提案は、一般的にいわれていることだと思うが、さらに具体的な事例をあげて示してほしいと思った。

ちなみに八丈町議会では、数年前から毎年住民懇談会を実施しているほか、NPO 法人「はなの会」に議員が参加して意見交換を行っている。なり手不足の解消も住民との交流をいかに実現できるか、議員からの具体的な発信力にかかっていると思う。